Ⅲ　結果のあらまし

1. 定 住 意 識

福生市への居住開始時期は、「昭和60年～平成6年」（23％）と答えた人が2割強で最も高い。また、「生まれたときから」住んでいる人は16％となっている。

福生市への定住意向をたずねたところ、「ずっと住み続けたい」と答えた人が59％と最も高くなっている。これに「当分の間住みたい」を合わせた“住み続けたい”では、8割を超えている。一方、「できれば、市外に移転したい」（8％）と「移転する」（2％）を合わせた“移転したい”は僅か1割となっており、市民の定住意向の高さがうかがえる

問2で、「できれば、市外に移転したい」あるいは「移転する」と答えた人（75人）に、その理由をたずねたところ、「騒音などの公害がある」が最も多く27％の人があげている。以下、「住宅の都合」（19％）、「交通が不便」（16％）、「仕事の都合」（15％）と続いている。

2. 生活環境評価

次に生活環境13項目について住みよさの評価をしてもらった。

地域の生活環境で、「非常に満足」と「まあ満足」を加えた“満足”層に半数以上の回答があった項目は、「住まいの日当たり、風通し」（59％）、「食料品・日用品の買い物の便」（56％）、「ごみ、し尿の処理状況」（52％）の3項目である。また、「やや不満」と「非常に不満」を合わせたものを“不満”層とすると、唯一「騒音、振動、大気汚染などの公害」（61％）のみが“満足”層を上回っている。

集計に際して、「非常に満足」に2点、「まあ満足」に1点、「普通」に0点、「やや不満」に－1点、「非常に不満」に－2点の得点を与え、各項目の総得点を無回答を除く回答者数で割り、平均評価点を算出した。それによると、最も評価が高い項目は「住まいの日当たり、風通し」（0.67）となった。以下、「ごみ、し尿の処理状況」（0.56）「食料品・日用品の買い物の便」（0.53）が、0.5以上の評価点となっている。また、「騒音、振動、大気汚染などの公害」は－0.62と、最も評価点が低くなっている。

福生市が住みよいところだと思うかたずねたところ、「非常に住みよい」と思う人は6％、「まあ住みよい」と思う人が51％で、両者を合わせた“住みよい”では57％となる。

3. 福生市の魅力と将来像

福生市の施設や行事の中で、福生市らしい魅力を感じるものをあげてもらった。その結果、最も高かったものは、「七夕まつり（8月）」で50％と半数の人があげている。次いで「多摩川沿いのサクラ並木」（28％）、「玉川上水」（28％）を3割弱の人があげている。以下、「横田基地」（25％）、「多摩川」（24％）、「中央図書館・郷土資料室」（21％）、「ほたる祭り」（20％）、「多摩川中央公園」（20％）と続いている。

将来の福生市については、「緑に囲まれたまち」であってほしいという回答が最も高く、39％と約4割の人があげている。次いで、「人間的なふれあいのあるまち」が28％、「公害のないまち」が27％となっている。以下、「便利でにぎわいのある商業のまち」（18％）、「ボランティア活動のさかんな福祉のまち」（16％）、「調和のとれたまち並みの美しいまち」（16％）、「文化活動やスポーツなどが充実しているまち」（14％）と続いている。

4. 消費者意識

普段日常品の買い物に最もよく出かける地域をたずねたところ、「福生市内」と答えた比率が最も高く、72％と7割を超えている。以下、「立川市」（11％）、「あきる野市」（2％）、「八王子市」（1％）となっている。

問7で「福生市内」ではなく、市外で買い物をすると答えた人（190人）に、その地域までに主によく利用する交通機関をたずねた。主によく利用する交通機関としては、「自動車」が最も多く46％と半数近くを占めている。次いで「電車」が38％となっている。

同じく市外で買い物をすると答えた人に、市内でなく市外に買い物に出かける理由を答えてもらった。その結果、「市外の店にはいいものがあるから」という理由が最も多く44％を占めた。以下、「市内の店にはいいものがないから」（25％）、「通勤・通学の途中だから」（18％）と続いている。

5. ごみ減量とリサイクル

次に市のリサイクル状況についてたずねた。市が再生利用を進める上で、今後、重要になることは、「市が積極的に資源ごみを回収する」が最も高く45％の人があげている。以下、「製造者や販売者など事業者の責任で回収・資源化を図ることを義務づける」（37％）、「市民に再生品を使うようPRを徹底する」（22％）と続いている。

ごみ処理の有料化については、「有料化すべきでない」という意見が51％と半数を超え、「有料化すべきだ」の27％を上回っている。

家のごみの発生原因としては、「過剰包装の商品が多い」が73％と4分の3近くの人が答えている。次いで、「使い捨て商品が多い」（56％）、「ダイレクトメールなど不要な紙が多い」（55％）となっており、製造者・業者側の責任に関するものが上位に上がっている。

6. 福祉社会

子どもが健やかに生まれ育つための社会環境づくりのために必要な施策としては、「受験戦争の緩和など、ゆとりのある教育環境の確保」が最も高く53％と過半数の人が答えている。以下、「子育てに対する経済的な負担を軽くするための施策」（37％）、「児童館や児童公園など子どもがのびのびと遊ぶことのできる場の整備」（30％）、「世帯人員に応じたゆとりある住宅確保等のための住環境の整備」（28％）、「身近な地域で子育ての相談や支援が気軽にできる養育環境の推進」（24％）と続いている。

老後の暮らし方としては、「趣味を深めたり、新しい知識を身につけたい」（31％）と「毎日の生活の中で、家族や友人などとの接触を深めながら暮らしたい」（31％）がそれぞれ3割を占め高くなっている。次いで、「自分に適した仕事を持ちたい」が22％となっている。

ボランティア活動については、「したことがある」人は19％と約2割しかなく、「したことがない」（81％）が大半を占めている。

今後のボランティア活動については、「したいと思う」人が51％で半数を超えている。

7. 横田基地

横田基地についてたずねたところ、「あってもやむを得ないが、騒音対策や生活環境整備に力を入れる

べきだ」が最も高く54％を占めている。次いで、「国政上の問題であり、あってもやむを得ない」が19％となっており、“あってもやむを得ない”と考えている人が多い。

将来の横田基地のあり方としては「日本に返還して、福生市など関係市町のまちづくりにも使えるようにすべきだ」が56％と半数を超え最も高くなっている。

8. 国際化社会

今後外国との交流がすすむ中で、どのようなことができると思うかたずねた。その結果、「外国人に対して、差別をしたり、特別視をしない」が53％で最も高い。以下、「外国人と一緒にレクリエーションやスポーツを通した交流をする」（31％）、「外国語や外国に関する勉強をする」（26％）、「日本の言葉や習慣などを教える」（26％）と続いている。

市が国際化を進めていく上で特に力を入れるべきだと思うこととしては、「小・中学校などに外国人教師を招き、外国語教育に力を入れる」が35％で最も高くなっている。次いで、「横田基地を利用して、アメリカの情報や文化の交流を盛んにする」が34％となっている。

9. 行政改革

市に求める行政改革としては、「市の職員は、民間企業並みのコスト意識をもって事務事業を実施し、無駄をなくした効率的な運営に努めるべきである」が59％で最も高くなっている。以下、「昼休みの窓口サービスや夜間の窓口サービスに力を入れるべきである」（42％）、「市役所、その他市の施設の職員数はなるべく増やさないようにし、事業の委託化や臨時職員の採用など、工夫して事務事業を行うべきである」（34％）、「近隣の市や町と連携して共同で事業を実施したり、スポーツ施設や文化施設の共同利用をもっと進めるべきである」（24％）などとなっている。

地方分権については、「進めるべきである」と回答した人は31％で、これに「どちらかといえば進めるべきである」（34％）を合わせた推進に前向きな人は65％となっている。一方、「どちらかといえば進める必要はない」（8％）と「進める必要はない」（4％）を合わせた推進に反対の人は僅か1割に過ぎない。

福生市が近隣の市や町と合併することについて「賛成である」と答えた人は24％であり、これに「どちらかといえば賛成である」（28％）を合わせると52％となり、過半数の人が合併に“賛成”と答えている。一方、「反対である」（12％）と「どちらかといえば反対である」（15％）を合わせた“反対”は27％にとどまっている。

10. 情報化社会

来るべき高度情報化社会に期待する情報としては、「在宅診療」が44％で最も高くなっている。以下、「施設利用等の在宅予約」（21％）、「趣味・娯楽情報」（20％）、「旅行・レジャー情報」（18％）と続いている。

市が情報化を進めていくうえで力を入れるべきこととしては、「個人情報の保護やプライバシーの保護」が33％で最も高くなっている。次いで、「行政事務の一層のコンピュータ化」が21％となっている。

11. 広　　報

『広報ふっさ』については「くわしく読む」と答えた人が25％で、これに「ざっと目を通す」（43％）と「必要なところだけ読む」（17％）を合わせると、85％の人が“読む”と答えている。

次に『広報ふっさ』を“読む”と答えた人（629人）に主にどのような内容に関心を持って読むかたずねた。その結果、「催物関係」と答えた人が20％で最も高く、以下、「福祉関係」（16％）、「市の大きな行事」（13％）、「保健・衛生関係」（12％）、「税金関係」（11％）、「教育・文化関係」（11％）などと続いている。

『福生市議会だより』の閲読度は「くわしく読む」と答えた人が8％で、これに「ざっと目を通す」（31％）と「必要なところだけ読む」（11％）を合わせると、50％の人が“読む”と答えている。一方、「ほとんど読まない」（40％）と「見たことがない」（10％）を合わせた“読まない”でも50％を占めており、『広報ふっさ』の閲読度と違い“読む”と“読まない”が拮抗している。

『福生市議会だより』を“読む”と答えた人（373人）が関心を持って読む記事としては、「一般質問について」が最も高く31％を占めている。次いで「可決された案件や陳情」が26％となっている。

12. 市民と市政

市民が市政に参加する方法としては、「市の各種世論調査」が最も多く、36％の人があげている。以下、「公聴会」（20％）、「市長との懇談会や対話集会」（18％）、「環境保護活動など市民運動」（17％）、「市政モニター制度」（17％）、「手紙などによる提案制度」（16％）、「議員との懇談会」（15％）、「まちづくり市民会議等」（15％）などと続いている。

最後にこれからの市政に対して、特に力を入れてほしいことを3つまであげてもらった。その結果、「騒音などの公害対策」をあげた人が38％で最も多くなっている。次いで、「高齢者福祉対策の推進」を30％の人があげている。以下、「ごみ減量や資源のリサイクル対策」（21％）、「地震などの防災対策」（15％）、「道路や排水の整備」（14％）などとなっている。